



# 絶景を訪ねて 海沿いのドライブ

瀬戸内海国立公園の指定を受けて今年で80年。指定の決め手ともなったといわれる屋島を中心に、庵治・牟礼の沿岸部まで、海風薫る爽やかな道を疾走してみましょう。



城岬公園



太鼓鼻周辺

**ま** さに絶景！ 県道150号

0号を通って屋島北嶺を目指し、細い脇道を抜けた先が「長崎の鼻」です。

駐車場から長い階段を下っていくと、少しずつ広がる視界。岬の先端に立てば、西に女木島やサンポート、東に大島をはじめとする瀬戸の島影。辺りは磯の香りが漂い、思わず歓声が上がります。江戸時代、外国船対策として造られた砲台跡も残っており、海上防衛の要所としての屋島の役割も肌身で感じることが出来ます。

ここから北嶺山頂の「遊鶴亭」まで、2ヶ所の登山道で上ることもできますが、今日は150号で屋島をぐるっと一周し、ドライブウェイで山上へ。途中2カ所の「源平古戦場展望台」からは檀ノ浦の戦いの舞台となった一帯が望めます。海に向かってゆ



エリア 高松市

小豆島、五剣山の眺めが楽しめます。屋島を下り、ここからは県道36号沿いに庵治・牟礼エリアへ。庵治町新開地区の城岬公園は、石の彫刻がいくつも並ぶ、ちょっとユニークな海辺のスポットです。さらに北上すると、道はやがて砂浜と並走したり、峠を越えたりと起伏に富み始め、吹き抜ける風が何とも爽やか。岬を回り込んで「太鼓鼻」を過ぎる頃には、すっかりリフレッシュしていました。

涼しげな海景色が広がる今回のコースは夏のドライブにぴったり。忙しい日常を、つかの間忘れてみませんか。



獅子の霊巖から女木島、男木島方面を望む

## 自然美を生き「愛される屋島」に

屋島山上観光協会 会長 森静家さん  
副会長 稲田稔さん



稲田さんと森さん(写真左から)

県内外から年間60万人が訪れるという屋島。森さんと稲田さんはその山上で長年お店を経営し、観光客を迎えてきました。「いつも見ていると当たり前のように思いがちですが、県外などで違う風景を見ると、屋島の美しさと魅力を再発見します」という森さんの店舗は、獅子の嶺巖が目の前という絶好のロケーション。

二人が口を揃えるのは「自然美こそ屋島の財産」。稲田さんは「それを生き、多くの人、特に地元の人に愛される場所になるために、クリーンさを大切にしたい。海外からの観光客も増えていますから、道沿いに日本の固有植物を植えるとか、日本ならではの見せ方を考えていきたいですね」と意欲的です。

国立公園になって80年、節目の年を迎えた屋島。「これからは瀬戸内海という資源をもっと広く生かしていく時代が来ると思います。一過性のPRではなく、来てくれた人を満足させられるよう、努力と試行錯誤を続けていきたい」と森さん。将来をしっかりと見据える二人の語り口からは、観光地・屋島の魅力を支える人たちの熱い思いがひしひしと伝わってきました。